

# 「レファレンス・サービス」をぜひご利用ください!

図書館のサービスで「レファレンス・サービス」（調べもの相談）というものがあります。研究や調査にあたって図書館を効率よくご利用いただけるよう、質問や相談を受けて資料を紹介するサービスですが、身近な調べものや本さがしにも気軽にご利用いただけます。

地域資料（川崎の歴史や古い地図など）に関する相談が多いのですが、そのほかにも「大久保利通が主人公の小説はありますか?」といった読書相談、話のあらすじから「昔読んだ絵本なのですが、タイトルを教えてください」といったご相談もありました。



## ★★★★ほかにはこんな事例も★★★★

**【利用者の方より】**「神経」という言葉はいつ頃できたものですか? 外国の医学が入ってきてからの言葉だと思うのですが…?

**【レファレンス回答】**「神経」の語源については、『日本国語大辞典』（小学館 2001年刊）の第7巻「神経」、また『日本大百科全書』（小学館 1988年刊）の第12巻「神経」の項に記載されています。

（『日本国語大辞典』より引用）「**神気の経脈**」の意から杉田玄白が「解体新書」の中でZenuw（オランダ語）にあてた語。

（『日本大百科全書』より引用）神経の名称は、杉田玄白が『解体新書』で初めて用いたもので、字義は**神気経脈**の「神」と「経」とをとって「精神の経路」という意味であった。

「神気」「経脈」については前述『日本国語大辞典』にそれぞれの項に記載されています。

「**神気**」（『日本国語大辞典』より引用）①万物を組成する元素。②不思議な靈気。③すぐれた趣。④心身の力。気力。活力。⑤精神。魂。心の動き。

また、『日本国語大辞典』によると「**経脈**」は「**経絡**」に同じ、とありますので、同辞典「**経絡**」を引用します

「**経絡**」（『日本国語大辞典』より引用）（「**経**」は動脈、「**絡**」は静脈の意）東洋医学で、鍼灸、手技糸の基本であるつぼ（**経穴**）とつぼを結びつらねるすじ道。

杉田玄白、また『解体新書』についてはこちらの資料を参考にしました。

1. 『解体新書 全現代語訳』（杉田玄白／〔訳〕 講談社学術文庫 講談社 1998年刊）

2. 『杉田玄白』（片桐一男／著 吉川弘文館 1986年刊）

※翻訳にあたって、どのように日本語をあてていったかの解説が書かれています。

3. 『解剖学教室へようこそ』（養老孟司／著 筑摩書房 1993年刊）

※99pに「神経」の翻訳について書かれています。

\*\*\* 「解体新書」の翻訳にあたって杉田玄白が…。 「調べもの」を通じて多くの事がわかってきます。